

児童・生徒の現状・課題

・生徒の多くは、授業や宿題など、与えられた課題に対して真摯かつ着実に取り組むことができる真面目な学習態度を有している。指示された内容を正確に遂行する力はある。生徒間における学力の二極化が顕著である。学習内容の理解が追いつかない一部の生徒において、「わからない」という挫折感が積み重なり、結果として学習意欲を失って「(課題に)取り組まない」という思考・行動パターンに陥ってしまうケースが見られる。



学び続ける力を育むための重点目標

- 教育データの活用・視覚化により生徒自らが把握分析し、「学び続ける力」を意識させる(挑戦、自己理解)
- 特別支援教育(UD)の視点をもとに、学習意欲の向上を意識し学びを深める。(粘り強さ)



具体的な手だて①

朝キュビナ(木・金)を実施している。
木曜日は、数学、金曜日は、英語を行っている。
教科ごとに課題をだし、授業の進み具合で個々の能力に応じてすすめる時間を設定する。

具体的な手だて②

・授業の流れを黒板に明記し、見通しをもって学習できるように取り組んでいる。個々の学習の進度の差は、次に進む課題で選択して行うようにする。

具体的な手だて③

単元・題材の途中や授業1コマの途中で振り返る場面を設定し、理解度や進捗状況を自ら確認し、修正しながら学習できるようにする。



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- 2026年度特別支援教育推進モデル校の指定を受け、全校体制のもと、学校全体で一丸となって研究および授業実践の推進に取り組む。
- 研究の classroom をつくり、情報交換を行っている。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	48	58%	
②基礎的・基本的な事柄が身についている。	79%	85%	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	45%	55%	
②基礎的・基本的な事柄が身についている。	75%	85%	

総括(5月)

2026年度特別支援教育推進モデル校の指定を受け、「すべての生徒が参加できる授業実践」を研究テーマに設定いたしました。現在、校内では生徒の学力の二極化が進んでおり、授業内容が「わからない」ことが引き金となって学習を「やらない」状態に陥ってしまう生徒への対応が大きな課題となっています。この現状を打破するため、東京都教育委員会が掲げる「誰一人取り残さない」教育の実現を視野に入れ、全教科においてユニバーサルデザイン(UD)の視点を取り入れた環境づくりや、ICT(1人1台端末)の効果的な活用をさらに深化させてまいります。すべての生徒の学びの保障と、学習意欲の向上を目指した授業改善を組織的に推進します。

総括(1月)